

Ex 1604A Doc 3045

本籍地 Manitoba 州 Winnipeg 市 Corydon Ave に三〇番地  
トハ・ポートメント正列官職なる軍陸軍中佐なる小官 George  
Trist は宣誓したる通り陳述す

一市民生活にあつては私は Winnipeg 市役所勤務の會計係  
がなりたる

二私は Winnipeg の軍隊の将校でありしは香港の防衛  
に參加して居りました

一香港の停戦に對して終つた後に食糧は將校兵士  
共に時々々々にはたして私達は豚の糞尿としても使はう  
としなほ極度の性煩のものでありしに米は明に床を掃ひ  
て糞を集めたものである野米は馬鈴薯と菊の芽と  
でありしに

一南京營舎と漢口營舎とも合ふ三ヶ所收容所は  
康寧等を合ふ一の鄭産を日本側の九龍占領の  
當初の間支那人に依る掠奪せられたるにそして私  
達も最初はその一拘禁せられたる時にはそこには全く何物  
も無く只營舎の空土座を敷いただけでありしに

日本側に依つては糞尿も糞尿も子へられまへん  
とて私達にはコラートの床の上には眠らなければならぬ  
とて私達は非やうの破れた他所を椰子表や收容  
所附近の破壊建物から拾つて糞尿を古煉瓦や「タコ」板  
を以て塞ぎました此の據地は「リダ」兵が一四二三年一月  
二三日三水南から「ースポイント」收容所に移されし時に  
も依然として同様でありしに

「ースポイント」は戦前は支那人の避難所でありしに

110

Doc 5093

支那の日本占領地から北（と香港地区）殺到する支那人を  
收容するために建てる所がございまして、私の陣営に所では戦う  
この種も者が約六百名を收容し、との事でありまして降伏の  
後及び海軍職員がわが方と云は、リースポイントに在つた期間  
に各階級二百名がそこに拘禁されておりました此の收容所  
は日本側の残して二段木床を備へてありまして然し下層  
層の全員は通へるには充分なところではありませんでした  
の中或る者は破等にもつて破壊され、二個の窓から拾  
つて来た木材から床を造る事が出来たが他の者は床の上に眠  
る事も出来なかつたので窓は破損に遭つておりました  
遂に海軍が五三三四四番出た時初めて事態は救はれま  
した。收容所病院として使用される建物は全く無味であり  
「コナリー」の床は地面より下に在りまして雨季の間は常に数  
滴の水が床にはありまして

五三三九四番和達が三水衛に帰つた時にも此の窓の床に  
けが人と放棄は出来ませんでした。床や窓枠は依然として  
煙草や鉄板を氷る寒が、例外として数個の窓が水に  
あるどろどろに「ガング」からのもので修理されておりました  
床は窓の窓の内側に板に包つて作られておりました。

此らに南京法に懸つてそれと違つた事は不承でありまし  
た。そして日本側には對する國三の抗議の故 私達は一歩を撤去  
する事を許されたいは床の上に眠ることになった。

如何なる種類の血も什番も日本側に従つては与へられまんでし  
た。そこで最初の三月の間は私達は鐘詰とらと鐘とがその他手に  
ある一と出たものは何でもかまはす血として使用しました。

Doc 5093

3  
1/6

将校連が最初の三月命令の俸給を受けに時 皿、ナイフ、フォーク、スプーン等と細い物を酒保を請いて購はれやと出来る限り将校連は此等の物資に最も困る居る兵連に予へたストアは日本側には依るはなへられませんでした。その料理は皆拾つて来り煙月等が造つたストアや煙で作られましてハースポイストやアーガイルスト。その收容所では洗濯、水浴、便所等には水道が使用されましてが三水南には水洗式便所はありませんでした。ベケツが使用され排泄物は日に三回敷内に埋められました。

香港港に在つた部隊の提出した所請班書は私連は如何なる状況の下に於ても米士を企てることを班長と部員逐日の宣班書の形式のものでありましてハースポイスト收容所長は私連に署名せよと申しましたが私連は拒絶しました。そこで香港地区の全休隊收容所の長生官にも徳永大佐は收容所長の住宅にて會議を招集しました。当時の收容所長は和田少尉である徳永大佐は私連に署名せよと申しました。そこそ之は日本軍の命令であるとして私連は署名を拒否するが私連は日本軍の命令に背いてゐる事になり、私連は軍法會議に附せられ、日本の軍法に依り處せられるであらうと謂ふ事とす。而して徳永大佐は通訳を通じて話したがその姓名は私は知りません。General malthyも既に署名してゐたのであります。そこでHome中佐はGeneral malthyに連絡を看せ又は電話をすることを許さるやうにとつて申し附け之は拒絶されました。遂に私連は意見を決して署名しました。然し私連は徳永大佐に之は強制の下にはなすべからざるから拘束力があるものとはしてはと謂ふ「」も拒絶しました。此の會議にはW. J. Home 中佐 J. H. Price 中佐 Fred T. Atkinson 中佐及び Royal Rifles Unit. C. A.



Doc 5093

(young)

ヤング少佐、H.W. (HooK) 少佐等が列席した。少佐は今は政

令を待たず

之は一九四三年四月の末日が午。初頭の出来事であり、私達はこの會  
 議に約二時間列席した。私達は徳永大佐に對し、斯様な手続は  
 私達の軍法に違反するものなることを更に反の立場。行軍を規定す  
 る軍法規に違反するものであり、お来るほうは逃しても金になることは  
 私達の軍務である。ことを指摘し、彼は私達は最早や將校に  
 非ざることを反私達は陣に待たぬ。然も日本軍の命令に服従する  
 ことを拒否することは重大なる結果を招くであろうと諷刺することを得た。  
 彼は私達に收容所に歸つて兵に署名する様に訓示する様にと命令  
 した。私達は之れを拒絶した。然し、やう私達自身としては既に  
 署名をなしたことを告げ且つ兵にはその適当なりと信する所に従ひ行  
 動する様に自由に委すと答へたことを彼は告げました。そこで彼は私達に軍  
 令しなければ彼自身があると言ひました。結局兵の大部分は署名をし  
 ました。然しかたが Royal Rifles, Unit 10 の J. Porter 少佐は拒絶書に  
 署名する事を拒否しました。彼は彼を運ぶべく一週間拘留されま  
 した。

十八 私は自らで次の出来事を目撃しました。

(a) 一九四三年十二月三十一日の頃 私は Winnipeg 戦隊の John,  
 A. Norris 大尉及び Royal Rifles, Unit 2 の F. T. Atkinson  
 大尉が日本側へ通譯井上總名 Kamloop 少佐なる者に  
 打たれたり蹴られたりするのを目撃した。

90 4

Doc 5093

此時カニ井上ノ NORRIS 大尉、顔ヲ一方ノ手ヲ以テ  
打テ更ニ他方ノ手ニ持ツテ井上ト奥呼極メテ頭部ヲ打ッ  
コトヲ始メタリ。此等ノ打撃ノ爲 NORRIS 大尉倒レ  
マシタ。ソノ倒レテ井上ト間ニ彼ハ井上ニ蹴テシマシタ。目下、  
收容所指揮官、何等止メヨウトセシマセテシタ。井上ニ依  
ル NORRIS 大尉、此ノ不法待遇間ニ ATKINSON  
少佐ガ現レテ井上ニ何カ言ヒマシタカ井上ハ今度ニ ATKINSON  
一方ニ向キ直ツテ彼ノ膝ノ所ヲ蹴リマシタ。私ハ百碼以内ノ  
個所ニ在リテ此ノ整列ノ前列ニ中タリテ私ハ明瞭ニ此  
ノ事ヲ見ルコトガ出来タリタ。

NORRIS 大尉ニ加ヘテ此ノ不法待遇ノ結果トニテ、  
彼ハ診療所ヘ送ケ連行サレマシタ。ソレハ此ノ打撃、  
行ハル場所ガ約二十碼ノ場所デアリマシタ。 NORRIS  
大尉ハ此整列ガ解散セラル時ニ尙モ診療所ニ居  
リマシタ。私ハ約二時間、後再び NORRIS 大尉ニ会ヒマシ  
タ。其ノ時ニハ彼ノ顔ハ蒼ク紫班ガ出来テ又腫レテ井  
上マシタ。彼ハ私ニ何カ言ヒマセテシタ。

(4) モウソノ出来事ハ香港海軍義勇兵 BARNET

Doc 5093

26.6

大尉二蘭也。之、一九四四年春、CINDAL上調、独  
系瑞西人ナル瑞西政府、代表ニ依ル三木甫ニ於テ  
ル赤十字視察、際ニ起キテ出来るデアリマス。其、  
同ジ營舎ニ中々教名ノ俘虜、ハ、英兵デアリ  
氏名ノ想起ニ、ハ、等カ、BARNET大尉ハ赤十  
字代表ニ向ツテ、我々ノ餓死セ、カ、デアリマス。其  
下、我々、何カニ下サ、マス、カ、ト、カ、又、其、  
趣、口、ト、述、ベ、タ、ト、謂、フ、コ、ト、始、マ、リ、彼、ノ、牧、畜、所、本、部  
附、通、訳、人、ト、ハ、リ、音、読、氏、長、二、人、省、兵、二、依、リ、  
營、舎、カ、テ、出、サ、シ、ト、シ、テ、物、置、部、局、ニ、入、リ、  
マス、赤、十、字、代、表、ノ、視、察、ヲ、完、了、ス、ル、コ、ト、ナ、リ、  
營、舎、ノ、外、ノ、寒、内、セ、シ、マス、其、赤、十、字、代、表、ガ、去、リ、  
タ、後、テ、原、田、軍、曹、其、人、ノ、一、九、四、三、年、ノ、暮、カ、一、九、四、  
年、ノ、年、初、ニ、此、ノ、牧、畜、所、ニ、来、タ、兵、デ、ア、リ、マス、ガ、彼、  
ノ、二、人、省、兵、上、共、ニ、来、ツ、テ、来、テ、BARNET大尉、ノ、物、  
置、部、局、カ、テ、連、出、シ、其、ノ、頭、部、ヲ、打、テ、始、メ、マス、  
原、田、軍、曹、ノ、BARNET大尉、ノ、斃、ニ、收、メ、タ、後、一、會、  
々、テ、殺、回、打、テ、音、識、ヲ、失、ヒ、テ、打、テ、マス、

Doc 5093

此ノケース、ポイント收容所ニ於テハ一九四三年八月二十  
日ノ朝雨天デアッタ時、私達人等、舎内ニ於テ人時ノ  
哀呼ヲ受ケルコトヲ許サレマシタ。通常ハ此ノ哀呼ヲ  
練兵場デ受ケルデアリマシタ。此ノ哀呼ハ中隊指揮  
官ニ依ツテ行ヘルマシタ。舎内ノ生活状態が混  
雑ニテ、時々、哀呼ノ時各人々々照合スルコト  
ハ不可能デアリマシタ。然レ氏名ヲ呼ベバ各人々々  
ニ明白ニ答ヘマシタ。中隊指揮官ハソコデ口頭ヲ以テ  
其ノ結果ヲ副官ニ報告シ、副官ハ今度ハ旅團宛ノ哀呼報告  
ヲ作成シマシタ。此ノ日、一點報告デハ大隊ハ全員出席トナシ  
テマシタ。十時頃私ハJ.O. Payne軍曹が作成中デアッタ所ノ  
收容所地域及営舎ノ見取図ヲ見タカッタ。デ同軍曹ヨリ迎  
ヘニヤリマシタ。私ハ彼が見当ラナカッタコトヲ知ラセマシタ。ソコ  
デ私ハ彼ノ営舎ニ赴イテ彼ノセルトコロハ何處カト尋ネマ  
シタ。ソシテ彼ノ営舎ノ内ノ下士官ハ或ル者カラ彼ノ夜中ニ  
逃セシタコトヲ知ラセマシタ。當時之ヲ私ニ知ラセタ者ハ下  
士官ノ誰デアッタカ私ハ想ヒ起シマセン、私ハ直ニ大隊ノ呼  
集ヲ命令シマシタ。之ハ十時ト十時半ノ間デアリマシタラフ。

No. 7



10055093

私に PAYNE 君と外三名が此一隊列から戻り来りて  
知りて。後、彼三名は、H. H. GEORGE BERZEN  
と、H. H. JOHN. H. ADAMS、H. H. PERCY  
J. ELLIS 氏等、此三名は、氷上、同様に、  
兵三番、不、私、彼等が夜中、氷上、  
直に、自、HOME 中、  
居り、且、氷上、  
彼、  
告、  
所、  
力、  
判、  
佐、  
三、  
集、  
年、  
此、  
此、  
數、  
ノ、  
捕、  
ナ、

私に PAYNE, BERZENSKI, ADAMS, ELLIS 等、  
見、  
何、